

卵囊(のう)

平成21年12月15日に伏見桃山城運動公園でセアカゴケグモが確認され、12月17日、18日に大規模な駆除が管理者によって実施されました。そのときに多数のセアカゴケグモが採集されたことは、以前に「衛生動物だより」で報告しました。採集した120個の卵囊について観察してみました。

卵囊の囊は、袋という意味です。卵囊内の卵は、孵(ふ)化すると1令幼体になります。1令幼体は、卵囊内部で脱皮し、2令幼体となり、そして、初めて卵囊から脱出します。

卵囊は、見た目から3つのタイプに分けることができます。軽く押さえると簡単につぶれるものは、既に2令幼体が脱出した後の殻です。

ほとんど白色の卵囊は、卵か卵から孵化した直後の1令幼体が入っています。卵囊の表面にごま塩のような黒い点状の模様を確認できるものは、既に1令幼体が脱皮して2令幼体が入っています。2令幼体は、腹部の下面にゴケグモ属の特徴である砂時計模様が確認できます。

今回の桃山城運動公園で採取した卵囊は、卵が詰まっていたもの14個、初令幼体が詰まっていたもの21個、2令幼体が詰まっていたもの85個でした。

卵囊中の卵の数

10個の卵囊について卵の数を調べてみました。最初は、糸がからんで数えるのが難しかったのですが、消毒用アルコールに漬けておくと、簡単にほぐれるようになりました。10個の卵囊について卵を数えてみました。258個、232個、141個、207個、209個、224個、189個、203個、195個、301個でした。最大301個、最小141個となり、かなりのばらつきがありました。そして、平均は、215.9個でした。ちなみに、今回採集された卵囊の中の卵が幼体になったとすると、 $215.9 \times 120 = 25908$ 匹の幼体が産出されたはずでした。すべてが成体になるとは限りませんが、今回の防

除が実施されていなかったら、伏見桃山城運動公園のセアカゴケグモの生息数は、更に増加していたでしょう。生息密度が高ければ、拡散が起こります。

その結果、物資や車などに入り込み、他地域への移動が容易に起こり得ます。特に伏見桃山城運動公園では、サーカスが開催されています。多量の仮設住宅、資材などがセアカゴケグモの発生源に近接して置かれています。セアカゴケグモがそうした場所に潜り込み、次のサーカスの開催地に移動することが考えられます。しかも、長期間にわたってサーカスが開催されることで、セアカゴケグモが潜り込む機会は、増えます。危惧(ぐ)しなければならないことです。最初、セアカゴケグモの生息が報告されたころは、セアカゴケグモが熱帯産のクモであるようなイメージが吹聴されていました。数年後には、このことは否定されましたが、今回の12月の調査で多数の卵囊が採集されたことをみても、冬季に繁殖していることが分かります。



多数採集された卵囊



卵が入った卵囊



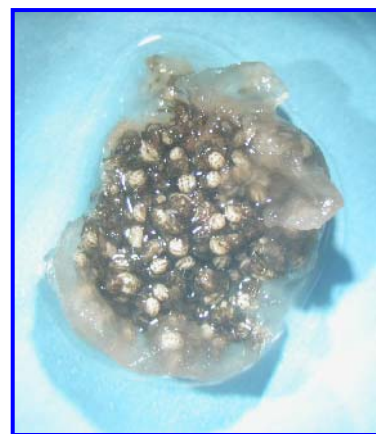
1令の幼体が入った卵囊



卵囊から取り出した1令幼体



卵囊から取り出した2令幼体



2令の幼体が入った卵囊